



学校教育目標

刮目 ～刮目の生徒・刮目の教師～

～かけがえのない自己の人生に目を開き、
たくましく自己実現していく生徒の育成～

校訓

自主・剛健・高雅



東金市立東金中学校 学校だより第36号

令和4年3月25日発行 文責：副校長 久我 和廣

令和3年度修了式

本日、3月25日（金）をもって、令和3年度の全ての教育課程が修了しました。保護者の皆様の御支援と御協力を得ながら、学校教育目標である「刮目 ～刮目の生徒・刮目の教師～かけがえのない自己の人生に目を開き、たくましく自己実現していく生徒」を目指して、教職員と生徒が様々なことにチャレンジしてきた1年が終わります。

本年度も新型コロナウイルスにより教育活動の影響がありました。特に様々な行事において変更が余儀なくされましたが、どの行事も生徒が主体となった素晴らしいものになりました。これもひとえに、保護者の皆様に御支援と御協力をいただいた結果だと思っています。1年間、本当にありがとうございました。

年度末には職員の異動もあり、学校の雰囲気も変わりますが、来年度も本年度以上の成果が残せるよう、学校の体制をしっかりと整え、気持ちを新たに頑張っていきます。

保護者の皆様には引き続き、本年度以上の御支援と御協力をくださいますよう、お願いいたします。

失敗なしで成功する人間なんていない

北海道にある旭山動物園は、日本で一番北にある動物園です。1年の半分近くを雪に閉ざされてしまいますが、とても人気があり、1年に165万人もの人が訪れます。ところが、今から20年ぐらい前は、お客さんがどんどん減っていき、閉園の噂さえささやかれていたのです。そのどん底状態だった動物園に、園長として就任したのが、小菅正夫さんでした。

旭山動物園にいる150種類ほどの動物は、どこの動物園にもいる動物です。パンダのような珍しい動物はいません。でも、小菅園長は動物たちの生き生きとした姿が大好きでした。そこで、小菅園長は動物園の復活のために「動物たちの生き生きとした姿に、お客さんが感動する理想の動物園を作ろう」と決めました。ここから、旭山動物園の挑戦が始まりました。

最初の取り組みは、飼育員が担当する動物の解説をする「ワンポイントガイド」や、餌やりの風景を見せる「もぐもぐタイム」でした。もちろん、すぐにうまくいったわけではありません。失敗もたくさんありました。でも、「失敗を恐れずに挑戦しよう。挑戦しなければ、未来は切り拓けない」と小菅園長は動物園の人たちに語り続けました。

しばらくすると、見知らぬ人にガイドしているお客さんや初めて来た友だちを案内しながら歩いているお客さんの姿を見かけるようになりました。何よりも、動物の生き生きとした姿に喜び、笑顔のお客さんが増えたのです。自信を得た小菅園長は、飼育員とアイディアを出し合い、動物の素晴らしい姿を見ることができる施設をいくつもつくりました。空を飛ぶようなすごいスピードで、ペンギンが水中を泳ぎ回るペンギン館、透明な円柱のトンネルをアザラシが気持ちよさそうに泳ぐアザラシ館。他にもたくさんありますが、そのどれもが失敗を繰り返しながらつくりあげたものなのです。



理想の動物園をつくらうという取り組みは、今も続いています。そこにたどり着くには、長い年月がかかるでしょうし、終わりのない挑戦かも知れません。でも、小菅園長はこうも言っています。

「努力は報われないかも知れませんが、努力をしなければ絶対に何も生まれません。未来のことなんて、やってみなければわからないことばかり。だから、失敗しながら進んでいくしかないのです。失敗なしで、成功する人間なんていないのですから。」

失敗は、成功への入口です。迷ったときこそ、やってみることが大切です。行動を起こさない限り未来を切り拓き、希望を実現することはできません。うまくいかなかった希望は、考え直したり修正を重ねたりすることで、新たな希望へと生まれ変わることができるのです。

(～偉人・著名人の言葉で語る校長講話(教育開発研究所)～)

令和3年度が終わりに近づき、間もなく令和4年度の1学期が始まります。1年生は中堅学年である2年生に、2年生は最高学年である3年生に進級します。生徒たちには、失敗を恐れず、夢や希望にむかってどんどん挑戦して欲しいと思います。今後の生徒たちの一層の活躍を期待しています。

第36号で本年度の最後の学校だよりとなりました。一年間御愛読いただき、ありがとうございました。